

四国太平洋沿岸の湖沼堆積物に記録された津波イベントと沈降過程

Tsunami and co-seismic events observed in back-marsh sediment along the Pacific coast, Shikoku.

岡村 眞 [1], 松岡 裕美 [1], 佃 栄吉 [2]

Makoto Okamura [1], Hiromi Matsuoka [2], Eikichi Tsukuda [3]

[1] 高知大・理・自然, [2] 地調・地震地質部

[1] Nat. Env. Sci., Kochi Univ., [2] Natural Environmental Sci., Kochi University, [3] Geological Survey of Japan

<http://sc1.cc.kochi-u.ac.jp/~mako-ok>

四国太平洋岸の沿岸湖沼や後背湿地は、南海トラフ陸側斜面の断層運動による地震・津波の影響を受け、地域的沈降や津波イベントをその堆積物中に記録している可能性が高い。堆積物は、新たに制作したコアリング筏とピストンコアラーならびにパイプロコアラーを使用して採取した不攪乱試料である。堆積物柱状試料には少なくとも6回以上の海浜レキおよび砂の流入が認められ、同時に海洋環境下におかれたことを示す微化石類が産出する。年代測定によれば、これら高エネルギー堆積物の流入間隔は約200年であり、沈降域の平均沈降速度は1.3m/1000年と見積もられる。

四国太平洋岸の沿岸湖沼や後背湿地は、南海トラフ陸側斜面の断層運動による地震・津波の影響を受け、地域的沈降や津波イベントをその堆積物中に記録している可能性が高い。堆積物は、新たに制作したコアリング筏とピストンコアラーならびにパイプロコアラーを使用して採取した計10本の不攪乱試料である。この調査により、過去の地震活動を津波堆積物から読みとる手法の有効性が改めて確認された。堆積物柱状試料には少なくとも6回以上の海浜レキおよび砂の流入が認められ、同時に海洋環境下におかれたことを示す微化石類が産出する。須崎市糺すが池の年代測定によれば、これら高エネルギー堆積物の流入は、2210yBPから1260yBPの約1000年の期間で6回認められ、その間隔は約200年である。それらイベントのA、Bはそれぞれ887年の地震と684年の白鳳地震に対応する可能性がある。須崎市沈降域のみかけの平均沈降速度は1.3m/1000年と見積もられる。